

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科
数学Ⅱ	必修	3	2	普通科

科目の概要	・いろいろな式，図形と方程式，の基本的な概念や法則を理解し，事象を数学的に解釈し，数学的に処理する技能を身に付ける。 ・数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことについて論理的に考察する力を養う。 ・座標平面上の図形について，方程式を用いて図形を表現し，図形の性質を考察する力を養う。 ・関数に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を養う。				
教材名	教科書	数学Ⅱ（数研出版）			
	副教材	4 S T E P 数学Ⅱ＋B（数研出版）			
担当者		武隈幸司 吉野友昭 倉俣達一郎 関口紫乃風			
学習到達目標		数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 （２）数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 （３）数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
学習方法		各単元ごとに、以下の要領を基本に、自立的、積極的に予習・授業・復習に取り組む。 ①予 習：教科書を読みどんな内容を勉強するか把握し、理解できないところを確認する。 ②授 業：理解できなかった部分をしっかり聞き、演習する。 ③復 習：傍用問題集で演習し習熟する。 ④テスト：各単元ごとにテストを実施しそれに向けて復習し学習内容を定着する。			
評価基準と評価規準 ルーブリック			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査 一斉テスト 長期休業明けテスト 授業での取り組み	定期考査 一斉テスト 長期休業明けテスト 授業での取り組み		課題の取り組み状況 授業に対する姿勢 テストに向けての取り組み
	A	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70～100	評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70～100		評価方法の目標に照らして、十分満足できる成果を上げた。 評価値：70～100
	B	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30～69.9	評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30～69.9		評価方法の目標に照らして、おおむね満足できる成果を上げた。 評価値：30～69.9
	C	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9	評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9		評価方法の目標に照らして、努力を要する。 評価値：0.0～29.9

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
4	第2章 複素数と方程式	方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにさせる。	8	
5	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	数直線上及び座標平面上において線分の内分・外分の公式、2点間の距離の公式を利用できるようにさせる。また、直線の方程式に関する様々な問題に取り組ませる。	10	一斉テスト
6	第2節 円	円の方程式について理解させ、円と直線の関係や2つの円の関係について調べさせる。	10	前期中間考査 講習
7	第3節 軌跡と領域	平面上の点の軌跡を座標平面を利用して考察させる。また、不等式の表す領域を図示し、線形計画法などに利用させる。	8	一斉テスト 夏期講習
8	第4章 三角関数 第1節 三角関数	一般角 θ に対して、正弦、余弦、正接を定義する。単位円やグラフを描くことで関数の性質を把握する。	5	
8	第2節 加法定理	加法定理を記憶し、2倍角の公式、半角の公式に発展させる。三角関数の合成の公式を正しく理解できるようにする。	12	
9				前期期末考査
10	第5章 指数関数と対数関数	指数、累乗、対数の意味を理解、計算できるようにさせる。また、指数関数と対数関数のグラフを作成させる。そして指数方程式・指数不等式・対数方程式・対数不等式に習熟させる。	10	講習
11			10	一斉テスト 講習
	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	微分係数の図形的意味を理解させ、計算できるようにさせる。また、導関数の有用性について理解させ、簡単な関数の微分をできるようにさせる。		
	第2節 導関数の応用	接線の方程式を求めさせる。また、増減表を利用して関数の増減を調べられるようにさせる。		後期中間考査
	第3節 積分法	積分法が微分法の逆演算であることを理解し、不定積分の計算をできるようにさせる。また、直線や曲線で囲まれた部分の面積を定積分を用いて計算できるようにさせる。	8	
12			8	冬期講習 講習
1			8	
2	入試問題演習	・数学ⅡBCの問題演習をおこなう。	8	
3	「数学Ⅲ」の授業	・「数学Ⅲ」選択者は教科書を用いて「数学Ⅲ」の授業を行う。	8	春期講習
			計105	

